

環境・安全教育・防災・命の

教え込むのではなく、子どもたち自身に意識を

地域社会で安全に生活できるように、地域とのつながりに配慮するとともに、子どもたち自身が日ごろより意識し、考え、たくましく生き抜くことができるように、紙面を工夫しています。

そとでの かつどうの やくそく



たんけんにいこう

たんけんのじゅんび

- うきやすいふく
- ぼうし
- たんけんバッグ など
- デジタルカメラ など
- ハンカチ
- ボケットティッシュ

のはらでは

- ながそで、ながスライム



やくそく

いきものにやさしく



ごみはもちかえる



あぶない

「さわらない」、
「ちかつかない」の
やくそくをまもろう。



自然とかわる中では、環境保全の意識と、子どもたち自身の安全確保が大事になります。

こんなとき どうしよう

こまったときに どうするか かんがえておこう。



2

3

別冊 P.2 ~ 3

かたづけ 大作せん

つかえるものはもういちどつかうよ



リサイクルのために 分けて出そう



おちばや 草花も かたづけよう



下巻 P.124

124

下巻 P.55



水べ

生態系への配慮や、資源の有効活用など、基本的な環境意識を押さえています。

防災・減災と生活科の融合を

日ごろからの意識づけもさることながら、学校の周り探検や町たんけんなどで目にする、不思議なものに興味をもつという、生活科本来の趣旨も大事にしながら紙面を構成しています。



本編では、探検時に目にする多様なものの一例として、防災に関わるものを紹介しています。本編内では安全教育を目的化するのではなく、生活科本来の趣旨も大事にしながら、紙面を構成するように心がけました。



上巻末では屋内も含めた安全を、たんけんブックでは野外に特化した安全を掲載しています。また、家の人と逃げる場所を決めておく書き込みを設け、たんけんブックが非常時でも役立つ本になるようにと考えています。





生き物とのふれ合いにも配慮

生き物とのふれ合いには、その温かさが紙面からも伝わるように写真を厳選しました。また、生き物と接する際、生き物の事を考えて接することができるように、紙面を工夫しました。生き物とのふれ合いは、道徳心を養うことにも有効です。

上巻 P.66

わくわく

生きものとなかよし

みんなの留守にはどんな生きものがいるかな。

なかよしをしようかいしよう

あたたかかったね。 どきどきしていいよ。

みんなが来てくれていいね。

こんなこと 見つけたよ。 かんじたよ。

66

上巻 P.60~61

生きものとふれ合おう

生きもののはたらきを知り、大切に育ててみよう。

生きものとなかよくなるには

- ✕ おどろかせない。 どうすればいいかな。 ✕ おいかけない。
- ✕ おとさない。 なげない。 どうすればいいかな。 ✕ たいたりらんぼろしたりしない。

66

下巻 P.114

生き物の気持ちになって、接し方を考える巻末資料も設けました。

衛生面にも配慮

いよいよ

かってみよう せわをしよう

どんな すみかが いいのかな。

おどろかせない。 かかると病しよもうつるからな。

おとさない。 なげない。 ここのおしよを ちぎって食べてみる。

えんは ちがいがいいかな。

おどろかせない。 ししくごやを きれいに したいな。

おどろかせない。 ちぎって食べてみる。

114~117

66

下巻 P.56~57

衛生面にも特段の配慮を行いました。例えば、栽培活動で収穫した生野菜については家庭での管理のもとで食べるように促し、また、飼育動物については、環境省により要注外来生物に指定され、ザリガニカビ病などの衛生面の不安のあるアメリカザリガニを掲載せず、より安全なバツタをメイン素材として位置づけました。